

横浜開港資料館平成 27 年度第 1 回企画展示

異国の面影

— 横濱^{きょりゅうち}外国人居留地 1895 —

迷いこんだのは、120 年前の地図の中

日本最古級の火災保険地図 「横浜外国人居留地火災保険地図」(タテ・ヨコ約2m!)を初公開。

1. 展示会期など

- 会 期 : 平成 27 年 4 月 22 日(水)～平成 27 年 7 月 12 日(日)
会 場 : 横浜開港資料館 新館 企画展示室
開館時間 : 午前 9 時 30 分～午後 5 時(入館は 4 時 30 分まで)
水曜日(祝日をのぞく)は午後 7 時(入館は 6 時 30 分)まで開館
観 覧 料 : 一般 200 円、小中学生 100 円(ただし、5 月 30 日、31 日、6 月 2 日は入館無料)
休 館 日 : 月曜日(5 月 4 日は開館)、5 月 7 日
主 催 : 横浜開港資料館
共 催 : 横浜市教育委員会
後 援 : 朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk
協 力 : Y156 横浜セントラルタウンフェスティバル実行委員会

2. 展示趣旨

日本有数の観光地、横浜山下町。この街を歩くと、そこに漂う「異国の面影」に気づくかもしれません。ここはかつて「横浜外国人居留地」でした。幕末に開かれ、明治期に発展した「外国人居留地」は、横浜のエキゾティズムの源流です。欧米系・中国系・インド系などの商社・銀行・ホテルなどが建ちならび、貿易を通して世界と日本をつなぐ経済の拠点であり、外交の舞台であり、文化往来の窓口でもありました。

本展示では 1895 年の横浜外国人居留地(山下居留地)の地図を中心に、当時の写真や出土遺物などから、居留地の姿を明らかにしていきます。また、現代の「私」が地図の中にタイムトラベルしたという設定で展開していきます。ある日、うたたねから目覚めた「私」は、120 年前の大栈橋に立っていたのです。

横浜という都市の個性の一つは国際性です。その源は外国人居留地であり、その存在はこの街の歴史と魅力を理解する上で、重要な鍵となります。一枚の地図をてがかりに、居留地の姿をたずねる、時空の旅にかけましょう。

3. 展示構成

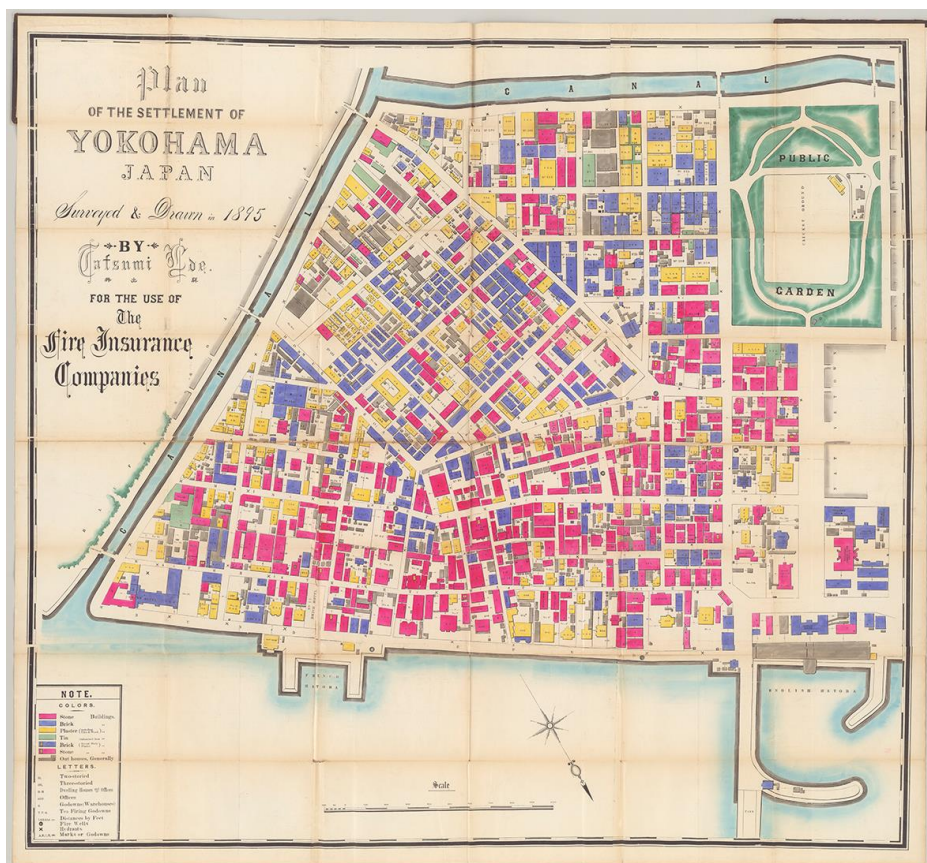
プロローグ 大栈橋に降りたつ／1 大栈橋界隈 日本の玄関／2 日本大通り 官庁街を歩く／3 本町通り 居留地のメインストリート／4 海岸通り 海風のプロムナード／5 水町通り ちょっと買い物／6 中華街 もう一つのエキゾティズム／7 堀川沿い 渡れば元町／8 外国人居留地とは何か／エピローグ

4. 展示資料の概要と点数

横浜外国人居留地火災保険地図(1895 年)、山下居留地関係の古写真、文献、出土遺物など 約 150 点

主な展示資料

① 横浜外国人居留地火災保険地図 1895 年 初公開 日本最古級の火災保険地図



井出巽製作 石版印刷・
手彩色 縮尺:約 1/600
190cm×200cm
Plan of the Settlement
of Yokohama, Japan,
Surveyed & Drawn in
1895 by Tatsumi Ide,
for the Use of the Fire
Insurance Companies
横浜開港資料館蔵

外資系保険会社向けの英語の火災保険地図（火保図）。火保図は保険料率を算定するために使われたもので、欧米では19世紀中頃から製作されたが、日本語の火保図は昭和初期から製作された。耐火性の観点から、外壁の材質により建物が色分けされている。赤は石、青は煉瓦、黄色は漆喰、緑はトタン板、グレーは物置などの付属建築物を示す。

② 横浜外国人居留地 本町通り 55 番地付近（現神奈川芸術劇場付近）古写真 1892 年頃 平尾コレクション・当館保管 初公開



本町通りは貿易会社・金融店・印刷店などが建ち並ぶビジネス街の中心。中央の建物はイギリス系貿易会社のコッキング商会。薄荷の製造輸出などを手がけ、「薄荷屋敷」の異名でも知られた。その手前はドイツ系貿易会社のイリス商会（現在は品川区大崎に所在。在日外資系企業の最古）。

③ 山下居留地遺跡出土遺物 神奈川県教育委員会蔵

旧本町通り 55 番地付近 (現神奈川芸術劇場・NHK横浜放送会館付近) より出土した遺物



イギリス製陶器皿 1800 年～1864 年



中国清朝期の磁器碗

④ 横浜外国人居留地 59 番地 (現山下町 59 番地) 付近 古写真 1892 年頃

平尾コレクション・当館保管 **初公開**



本町通りは居留地のメインストリートだが、関東大震災以前は道幅が現在よりかなり狭く、曲がりくねっている様子がわかる。中央左手の建物はイギリス系楽器商のモートリー商会で、ピアノの製造販売などを手がけていた。

●外国人居留地とは？

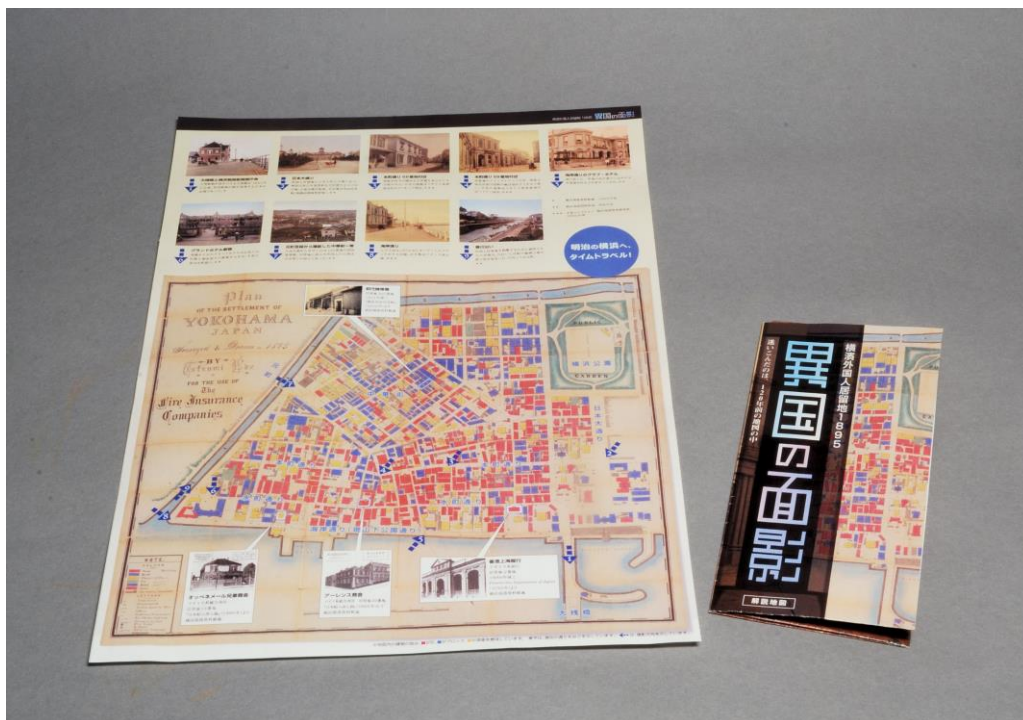
安政五か国条約に基づき開設された外国人の居住区。箱館・横浜・長崎・神戸などに開かれた。横浜が最大規模で、商業地区の山下居留地と住宅・文教地区の山手居留地からなり、1859 年から 1899 年まで存在。江戸幕府は外国資本などの国内進出を抑えるために居留地を設定し、原則的に外国人の活動範囲をその中に限定した。また外国人には日本の法権が及ばないことが大問題となり、その意味でも居留地に活動を限定する必要があった。1899 年、日本の法律制度の近代化などが推進された結果、諸外国との間の不平等条約が改正され、外国人にも日本の法律が適用されるようになった。と同時に外国人は原則的に日本のどこにでも暮らすことが可能となり、居留地制度は廃止された。旧居留地は山下町・日本大通り・山手町となった。「横浜外国人居留地火災保険地図」は、居留地制度が終焉する 4 年前、1895 年の山下居留地の明細地図で、1923 年の関東大震災で瓦解した居留地の全体像とその町並みを伝える、極めて貴重な資料である。

5 その他

① 展示関連販売物

「異国の面影 解説地図」 ¥300（税別） A3判1枚両面

展示の主な資料である、横浜外国人居留地火災保険地図と古写真を掲載。地図上に写真の撮影方向や被写体の建物を示すなど、展示の内容をわかりやすくコンパクトに解説。持ち運びに便利な折りたたみ式なので、これを持って時空を超えた街歩きをお楽しみください。



② 展示関連講座

■18 時からの特別講座

日時: 4月22日(水) 18:00~19:00 会場: 当館講堂 定員: 先着 80 名、受講料無料(要入館料)

西川武臣(当館副館長)「異国の面影サイドストーリー 新撰横浜全図からみる横浜〜明治28年の関内地域」

■展示解説講座

日時: 5月31日(日) 11:15~12:00 会場: 当館講堂 定員: 先着 80 名、受講料無料

■横浜市立大学主催・横浜開港資料館共催講座「外国人居留地からみるハマの歴史」

日時: 平成27年6月13日(土)、6月20日(土) 10:30~12:00 会場: 当館講堂

定員: 80 名 受講料: 1回 1600 円、2回連続 3100 円

6月13日 伊藤泉美 当館主任調査研究員「横浜外国人居留地 1895年—エキゾティズムの源流を旅する」

6月20日 松井道昭 横浜市立大学名誉教授 「フランスから見た幕末維新期の横浜」

③ Y156 横浜セントラルタウンフェスティバルとの連携

本展示は Y156 横浜セントラルタウンフェスティバル参加プログラムのため、同フェスティバル開催期間中の
5月30日(土)と31日(日)は入館無料となります。また、31日には展示解説講座も開催します。

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当	伊藤 泉美	TEL 045-201-2165
	副館長	西川 武臣	TEL 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 ^{きもと}木許(広報) TEL: 045-201-2100